



Title	社会命名論としての族譜の研究 : 「東原彭氏族譜」をデータとして
Author(s)	張, 洪彭
Citation	待兼山論叢. 日本学篇. 2006, 40, p. 19-35
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/8894
rights	本文データはCiNiiから複製したものである
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

社会命名論としての族譜の研究

—「東原彭氏族譜」をデータとして—

張 洪 澍

1 はじめに

中国には、族譜という家系図を中心に宗族の起源、発展、出来事、規約などを記録した書類がある。族譜はまた、家譜、宗譜、家乗、家牒、世譜などとも言われる。

族譜の起源は先秦（紀元前221年～紀元前206年）まで遡ることができる。時代とともに、族譜の社会機能と編集方式も変化し、記載される内容もどんどん充実していった。

宋代（960～1279）は中国族譜発展史上の重要時期である。宋代以前の族譜は「古譜」とも呼ばれ、政府が編集の主体で、官員の選挙、婚姻の選択、地位の高低を判断する目的で使用されていた。宋代に入ってから族譜は「近代譜」と呼ばれ、編集の主体は政府から民間の各宗族になり、その機能も政治的なものから「祖先を尊ぶ、宗族の声望を高める、宗族を団結させる」という倫理道徳を教化するものになった。

近代譜は北宋（960～1126）に始まり、南宋（1127～1279）、元代（1271～1368）で発達し、明（1368～1644）清（1616～1912）時代に隆盛した。民国（1912～1949）時代にも族譜の編集は盛んであったが、新中国（1949～）建国後は、編集が非常に少なくなった。しかし、1980年代の半ば頃から族譜編纂への機運が再び高まっている。

族譜の最も中心的な内容は一族の各世代の名前に関する記載である。本稿では、族譜に掲載される一族の男性の名前を取り上げ、それにおける命名実態を記述し、そこから長い封建社会を経て発展してきた族譜における命名の特徴を考察していきたいと考える。

2 「東原彰氏族譜」の記載から見る輩行字命名法の実態

2.1 調査

2.1.1 調査対象

「東原彰氏族譜」の「孝字巻」「弟字巻」「忠字巻」「信字巻」「禮字巻」「義字巻」「廉字巻」「恥字巻」の八部の族譜に掲載されている1世～26世の男性の名前（ここでいう名前とは苗字を除いた下の名前に限定する）の輩行字を調査の対象にする。

2.1.2 調査方法

「東原彰氏族譜」の全八部に掲載される男性の名前を世代ごとに全てパソコンに入力し、輩行字とそれ以外の文字を項目別で分けた。なお、ここでいう輩行字には一族で決められた族譜の輩行字の表に載っている輩行字と、そうでないものがある。族譜に掲載される輩行字の表に載っていない文字でも、以下に述べる輩行字命名法を基準に、輩行字と思われるものを抽出したのである。

2.2 「東原彰氏族譜」における輩行字命名

2.2.1 輩行字命名法

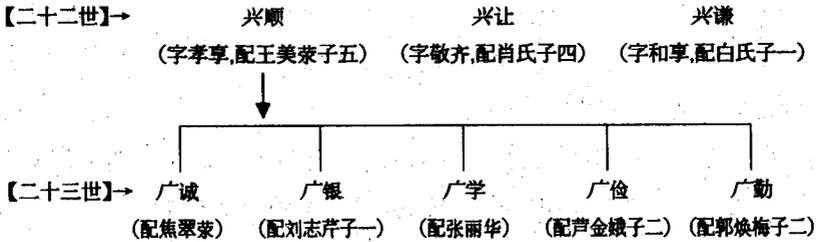
- ◆ 輩行とは、宗族の始祖から始まる一族の各世代の順位である。
- ◆ 輩行字は、輩字、行列字、範字とも呼ばれ（本稿では「輩行字」という名称を使用する）、世代ごとに名前の一部に使われることが定められている共通の文字、あるいは部首である。通常、下の名前が2文字

ある場合、輩行字は上のほうに使われる。下の名前が1文字である場合は、共通の部首が輩行字として名前に使われる。

例：【図1】の斜体字で表示されている「兴」、「广」はそれぞれ彭氏一族の22世、23世の輩行字である。【図3】の斜体字で表示されている「信」は15世の輩行字であり、下線で表示されている「銖、錦、釗、鉦」の「钅」は16世の部首の輩行字である。

- ◆ 輩行字命名法は一族、あるいは一家族の同じ世代に属する人の名前に共通の輩行字を使用する方法である。
- ◆ 輩行字命名法には2種類ある。一つは親が自由に輩行字を決め、生ま

【図1】



※出所：「東原彭氏族譜」の「禮字巻」

【図2】



※出所：「東原彭氏族譜」の「忠字巻」

れてきた子供に命名する際にその文字を使う方法である。もう一つは宗族の長老や知識人が十数世代、或は数十世代分の輩行字をあらかじめ決定しておき、親は生まれてきた子供に決められている輩行字と、もう一つの漢字を組み合わせて命名する方法である。第一の方法は漢代（前206～220年）の末ごろから始まり、第二の方法は宋代（960～1279）から始まった。二つの方法とも最初は主に皇族や貴族の間で実施されていたが、次第に民間にも広がってきた。（劉（2000）筆者訳）

2.2.2 彭氏族譜における輩行字に関する記述

族譜の一回目の編集時（乾隆十年（1745年））に、編集責任者であった13世代の天一（人名）は、「創修族譜序」の最後に「宗族各家族が命名時に輩行字に従えば、今後何年経ってもルーツを辿ることができる（筆者訳）」と記している。しかし、当時の族譜には、彭氏宗族の輩行字に関する具体的な説明は明記されていない。

その後、第三回目の族譜編集（民国25年（1936年））においては、輩行字の制定などに関する説明がなされ、彭氏一族が使用する輩行字に関する詳しい記述が「三修族譜序」の後ろに掲載されている。

そのなかに、次のような記述がある。

「8世～20世には、古くから伝わってきた命名時に参照できる輩行字が存在しない。1世代の輩行字だけで十数個ある場合もある。後世の人を混乱させないために、また命名時に忌を避けるために、表にして示しておく。」（族譜「孝字巻」、筆者訳）（表1参照）

その記述に続いて、次のような説明が掲載されている。

「輩行が区別できないのは、命名状態が乱雑になっているからである。今日をもって輩行字を決定し、命名時にこれを上の文字とし、任意命名することを許さない。」（族譜「孝字巻」、筆者訳）（表2参照）

【表1】 8世～20世の輩行表

世代	輩行字
8	子、大
9	思
10	應、良
11	一、有
12	克、誠、之、春
13	世、鳴、天、雲、政、桂、芳、士
14	忠、自、齊、宗、聖、中、維、為、名、純
15	元、朋、如、居、作、文、竹、志、繼、安、景、仕、廷
16	振、會、開、錫、輝、清、萬、更、魯、久、兆、美、旺、君、其、瑞、學、倫
17	德、淑、連、方、鶴、俊、百、永、金、伯、仲、希、聞、紹、加、三
18	迺、汝、際、鳳、正、懷、承
19	復、果、章、煥、養、化
20	立、樹

【表2】 公開議論で制定された18世～37世の輩行字

世代	輩行字
18	迺
19	果
20	立
21	可
22	興
23	廣
24	衍
25	川
26	毓
27	鴻
28	崇
29	道
30	明
31	潔
32	緒
33	建
34	業
35	培
36	厚
37	齡

輩行字に関する三点目の説明は1989年に19世代の果臣（人名）が書いた「四修族譜序」に掲載されているが、族譜の四回目の編集（1989年）では38世～47世の輩行字が10個制定された。その詳細を表3にまとめる。

2.2.3 実際の輩行字使用状況

『東原彭氏族譜族譜』の編集に至る経緯などが書かれている「序言」によると、彭氏族譜の一回目の編集は清代乾隆十年（1745年）で、編集を開

【表3】 公開議論で制定された38世～47世の輩行字

世代	輩行字
38	松
39	茂
40	敷
41	起
42	運
43	積
44	善
45	孝
46	敬
47	賢

始したのは13世、14世の宗族メンバーである。当時彭氏宗族の子孫は18世までいた。

三回目（1936年）と四回目（1989年）の編集で、18世～37世と38世～47世に使用される輩行字が決められた。このことから分かるように、1世～18世に使用される輩行字は親が決めたものであり、宗族の議論で決められた輩行字ではない（表1）。また、筆者が族譜に掲載されている全ての名前を調べるかぎりでは、族譜の輩行字の表に掲載されていないが、実際輩行字として使用されている文字があることが分かった。次の表4にまとめる。

【表4】 族譜の輩行字の表に掲載されていない輩行字

世代	輩行字
8	糸 ^①
12	陽 ^② 、王 ^① 、守 ^③
13	芝 ^③
14	王 ^① 、興 ^③
15	士 ^②
16	九 ^② 、糸 ^① 、亠 ^① 、木 ^① 、得 ^③
17	馬 ^① 、火 ^① 、王 ^① 、克 ^③ 、占 ^③
18	永 ^③ 、开 ^③ 、金 ^③
19	傳 ^③ 、玉 ^③
20	元 ^③
21	振 ^③
22	益 ^③
23	廷 ^③
24	廷 ^③ 、超 ^② 、昭 ^③

表4のうち、①は1文字からなる名前の部首の輩行字として使用されているものである。②は2文字からなる名前の輩行字として、名前の上の文字に使用されているものである。③は全て族譜の第8部の『耻字卷』に掲

載されている6世代の二祖(人名)の一族の名前に使用されているものである。このことに関して、『四修族譜序』に以下のような説明がある。

「6世代の二祖の一族が戦乱のため、明代永楽(1403~1425年)のときに河南省に移住し、明代崇禎(1628~1645年)のときに再び山東省に戻ってきたが、その間に二祖の子孫は独自の族譜を持ち、宗族の活動には参加していなかった。四回目の族譜編集が行われる際、二祖の子孫から是非彭氏族譜に二祖一族の名前を載せてほしいという要望があり、考証と検討の結果、この一族をすべて『耻字卷』に載せることにした。二祖の子孫は元来別の族譜と輩行字を持っているが、このたびの統合により、今後生まれてくる子孫に彭氏宗族が今まで制定した18世~37世(表2)と38世~47世(表3)の輩行表に従い命名することに決めた。」(筆者訳)

2.3 輩行字として使用される文字について

どのような文字が輩行字として採用されているのか、親や宗族の長老が子供に託する思いはどのようなものであるのか、を解明するため、輩行字として使用されているすべての文字の意味とイメージからの分類を試みる。

分類の結果は、以下のようである。

①宗族や家族の安定、継続、繁栄、発展を祈る文字

子、有、世、斉、宗、居、継、維、如、安、振(2)、開(2)、更、久、旺、連、永(2)、紹、加、承、復、養、可、興(2)、廣、衍、毓、建、培、茂、起、運、積、伝、延、守、占、益、得、三(たくさん、繁盛する)、九(「久」と発音が同じから長く持続するイメージを持つ)

②儒教の美德を表す文字

良、誠、忠、聖、純、君、倫、德、淑、方、正、崇、道、潔、厚、善、孝、敬、賢、清、芝(徳の高いこと)、竹(徳の高いこと)、松(徳の高いこと)

③出世

一、鳴、政、士(2)、中、為、名、元(2)、作、仕、廷(2)、果、昭、業、
緒、殿、超、化

④富み

萬、百、金(2)、王(部首3)、鈔(部首)、錫

⑤吉祥

瑞、兆、凰、春、玉(2)、桂

⑥宏大

大、陽、鴻、川、天、雲、景、樹

⑦才能

学、章、文、會、聞

⑧光輝

火(部首)、輝、明、煥

⑨自立

克(2)、立、自

⑩感情を表す文字

思、懷、希

⑪美麗

俊、芳、美

⑫健康を祈る文字

齡、鶴

⑬交際

朋、際

⑭志向

志

⑮長幼の順

伯

⑩その他

部首：糸、馬、讠

助動詞：應、

助詞：迺、汝、其、之、

地名：魯

※注：（ ）の数字はその文字が使用された回数

2.4 まとめ

- ◆ 正式な輩行字が決定されてから、20世～26世の宗族成員に確実に守られている。時代を超えた宗族への求心力が窺える。
- ◆ 24世の中で、決定された輩行字に従わずに命名する例がある。それは文革時代（1966-1976）に多い。当時、族譜は封建思想を代表するくだらないものと見なされ、それを保持している家や人が批判されたので、たくさんの族譜が焼却された。しかしながら、そのような厳しい時代背景の中でも、輩行字に従い命名する人のほうが明らかに多数であったことが分かる。

なお、族譜に掲載されている輩行字の表には部首の輩行字が見られない。しかし、実際使用される輩行字のうち、部首の輩行字が7個もあった。族譜を編集するとき、或は当時の編集者には共通の部首を使用することが輩行字命名法の一つである、という認識を持っていなかったのかもしれない。

輩行字として使用されている文字に対する分類の結果からは、以下のことが指摘できる。

- ◆ 宗族や家族の安定、繁栄と発展を願う文字が圧倒的に多い。宗族や家族に対する求心力が窺える。

- ◆ 儒教の思想や倫理道德の観念が社会の伝統文化として大事にされてきて、人々の思想に浸透していたことが窺える。
- ◆ 1989年の族譜の四回目の編集時に決定された38世～47世の輩行字のほとんどは、道徳や宗族の繁栄発展のイメージを持つ文字である。社会主義革命と文化大革命による激動を経て、改革・開放政策の下で経済が発展し、新しい社会に変わりつつあるにもかかわらず、再び族譜を編集し、旧制度の慣習へのこだわりを感じさせる文字を輩行字として多く制定しているのである。このことから、社会の変動に簡単に影響を受けることのない中国の人々の意識を読み取ることができる。

3 輩行字を除いた文字

以下では彭氏各世代の男性の名前（輩行字を除いた部分）を対象に、どのような文字がよく使用されているのか、それらの文字から時代的な変化が見られるかどうかを考察してみたい。

3.1 調査

3.1.1 調査対象

『東原彭氏族譜』の「孝字巻」「弟字巻」「忠字巻」「信字巻」「禮字巻」「義字巻」「廉字巻」「恥字巻」の八部の族譜に掲載されている1世～26世の男性の名前（輩行字を除いた文字）を調査の対象にする。

3.1.2 調査方法

『東原彭氏族譜』の全八部に掲載される男性の名前を世代ごとに全てパソコンに入力し、輩行字とそれ以外の文字とに分けた。1世～26世の男性の名前（輩行字を除いた部分）について、世代ごとに使用される回数を計算し、多く使用される順番にまとめたのである。ただし、1世～13世、26世の各世代は、人数が少なく一回しか使われていない文字が多数であるた

め、分析から割愛した。

3.2 結果と分析

1世～13世、26世の各世代は人数が少なく、一回しか使用されていない文字が多数なので、はっきりした順位が見られない。そこで、14世～25世を中心に上位に使用されている文字を統計した結果について、表5でまとめた。

【表5】 各世代に使用される上位10字

順位/世代	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
1	義/仁/ 禮/智 (3)	文(5)	成(6)	成/祥 (7)	貴(7)	明/山 (10)	成(16)	友(13)	海(22)	軍(31)	軍(28)	軍/华/ 龙(6)
2	誠/謙/ 良/宗/ 文/成/ 春(2)	仁/德/正 /成/貴/ 玉/鳳(4)	文/禮(5)	義(6)	義/祥(6)	安(8)	本(13)	忠/法 (12)	华/成/ 全(18)	华(30)	华(20)	东/伟 (5)
3		敬/義/信 /福/良/ 友/樂/元 /滿/庭/ 秀(3)	興/武/ 玉(4)	寬(5)	明/和/ 興/玉/ 泰(5)	良/常(7)	明(11)	祥(11)	民(17)	明(27)	龙(19)	金(4)
4			起/學/ 海/法/ 福/魁/ 思/經 (3)	和/友/ 茂/瑞/ 興/瑞/ 立/明/ 貴/章/ 山/元	智/仁/ 瑞/信/ 立/平/ 傑/江/ 富(4)	義/成/ 立/玉/ 元/善 (6)	德(9)	德/明/ 順/信 (9)	东/旺 (15)	海(24)	亮(18)	明/海/ 剛/波 (3)
5						禮/德/ 文/平/ 興/秀/ 田(5)	平(8)	義/全/ 廷(8)	順/才/ 林/海 (14)	作(23)	國/峰 (16)	立/来/ 順(2)
6							和/順/ 忠/義 (7)	仁/平/ 成/福/ 才(7)	玉/運/ 國/臣 (13)	金/樞 (20)	明/伟/ 強/庆 (13)	
7							元/祥/ 進/賢/ 山/海/ 功(6)		山/平/ 来(12)	东/平/ 新(19)	忠/壽/ 輝(12)	
8										強/龙 (18)	东/平/ 虎/胜 (11)	
9										民/成/ 亮(17)	林/海 (10)	
10										林/峰 (16)	民/光/ 生/臣/ 雷/新 (9)	

※ ()の数字は文字の使用回数

表5では、各世代で多く用いられている文字を、上位10字まであげた。14世から21世までの名前に使用される文字は美德を願うものが多い。例えば、「仁」、「誠」、「徳」、「義」、「善」、「順」などである。それに対して、22世からは社会情勢の窺える文字が現れる。それは、「华=華」(中華)、

「民」(人民)、「东=東」(毛沢東)などの、国や国の英雄を表わすものである。また、軍隊に入ることが「光荣」なことであった時代の風潮から23世、24世、25世では、「军=軍」という文字が上位に上がっている。雄大で強く、ロマンチックなイメージを持つ「海」、「波」、「涛」、「林」、「峰」といった文字も増えてきた。

また、輩行字を除いた文字を家族単位で見ると、同じ家族に生まれる子供に意味やイメージの上で共通の文字を使用する命名形式が多数存在することが分かる。以下大きく6種類に分けて示す。

① 兄弟の名に儒教の美德を願う文字

宗義、宗仁、宗禮、宗智(14世)

居敬、居謹、居恆(15世)

學道、學德(16世)

克勤、克儉(17世)

承順、承讓(18世)

果忍、果義、果禮、果智、果信、果成(19世)

立信、立義、立成(20世)

可仁、可義、可禮、可智、可信(21世)

興義、興禮、興智、興信、興倫(22世)

廣仁、廣義、廣禮、廣智、廣信(23世)

「義」、「仁」など儒教の美德を願う文字を使っている名前が圧倒的に多いことが分かる。ただし、24世、25世の名前の中にはこのような兄弟がそろうって儒教関係の文字を使うというパターンは見当たらない。その理由として、文革時代には儒教の思想がひどく批判されていたため、それ以後儒教の美德にこだわらなくなったということが考えられる。

② 兄弟の名に動物の文字

一鳳、一鸞、一鶴(11世)

桂鳳、桂龍(13世)

德麟、德麒(17世)

衍虎、衍豹、衍彪(24世)

川虎、川龍(25世)

「鳳」、「麒」、「龍」など、伝説上の動物や「虎」、「豹」など実在の動物を表わす文字が兄弟で共通して使われている。伝説の「龍」は古くから人気不衰なようであり、多くの世代に見受けられる。24世に入ってから、伝説の動物以外に、実在の動物に関する文字、「豹」、「彪」などが現れてきた。

③ 兄弟の名から単語か四字熟語ができる

連登、連科→登科 (科挙の試験に受かる) (17世)

承平、承坦→平坦 (18世)

復興、復隆→興隆 (19世)

果祥、果雲、果恩、果澤→祥雲恩澤 (19世)

立超、立群→超群 (20世)

可端、可然→端然 (21世)

興學、興習→學習 (22世)

廣茂、廣盛→茂盛 (23世)

廣振、廣興、廣中、廣華→振興中華 (23世)

延蓬、延勃、延发、延展→蓬勃發展 (23世)

延学、延雷、延鋒→学雷鋒¹⁾ (23世)

衍科、衍學→科學 (24世)

川軍、川營→軍營 (25世)

これらは、輩行字を除いた文字を組み合わせると、単語や四字熟語ができるパターンである。例えば、「延蓬」、「延勃」、「延发」、「延展」の四兄弟(23世)では、輩行字「延」を除いた字を、長子から順に並べると、

「蓬勃發展」という四字熟語ができあがる。

22世までは出世、繁栄、平安などを願う言葉が多かったが、新中国成立前後に生まれた人が多いと予想される23世から「国を振興させる」、「盛んに発展させる」などの愛国心を表わす言葉が現れる。更に三人兄弟の名に「雷鋒に学ぶ」という意味の言葉があり、そこには社会情勢が明らかに反映されている。

④ 兄弟の名に自然物

灑江、灑海、灑河(18世)

立江、立海(20世)

興雨、興雲、興雪(22世)

延海、延洋(23世)

川江、川海(25世)

⑤ 兄弟の名に有名人にちなんだもの

學堯、學舜(16世)

學孟、學曾、學熹(16世)

汝孔、汝曾(18世)

⑥ 兄弟の名に社会的な地位、富み、吉祥を願うもの

為公、為卿、為相(14世)

維金、維銀(14世)

兆祿、兆福(16世)

3.3 まとめ

どの世代でも親の願いをこめた名前が多いことが分かる。その願いは、美德、智恵、富み、出世、健康、強さなど様々である。

21世あたりまでは儒教の美德の意味を持つ文字が多く用いられているが、それ以後は社会情勢の影響を受けるような文字が現れてきた。国家のため

に奉仕するという、新しい道徳の基準や価値観が出来上がりつつある時代に影響されたものである。同時に雄大なイメージを持つ自然物に関わる文字も目立つようになってきた。

宗族や家族の繁栄、儒教の美徳を願う文字の多い輩行字には時代的な特徴が見られないのに対し、それを除いた名前に使用される文字、特に近代に入ってからのものには時代の風潮を感じさせられるものが多くなってきているのである。

4. おわりに

族譜における重要な部分として、本稿では取り上げなかったが、女性名に関する掲載がある。

彭氏一族に生まれた女性の名は族譜に掲載されないが、彭氏男性成員の配偶者である女性の名は族譜に掲載されている。しかし、配偶者である女性の名前の掲載形式は時代によって異なる。20世までの女性は全部「実家の苗字+氏」(例：陳氏)という形式で掲載されるのに対し、21世あたりからは「姓名」(例：陳麗栄)という形に変わっている。新中国成立後、「男女平等」政策が実施され、女性も正式な名前がつけられるようになったからだと考えられる。

なお、共通に使用される文字が多く、男性名と比べて異なり文字が少ないことも分かった。また、意味が単純で同じようなイメージを持つ文字が圧倒的に多いことから、男性名のように願いを込めて命名するのではなく、一般的な名前を安易につける風潮があるのではないか、男女平等政策が推進されたとしても、長い封建社会を経て、男性を中心とするという意識を持つ人がまだ多いことが窺われるのである。

注

- 1) 雷鋒 (1940~1962), 戦争のため、7歳から孤児になり、児童団団長、少年隊隊長、共産主義青年団員などを経て、19歳で軍隊に入り、20歳で共産黨員、22歳事故で亡くなる。公私とも国と人民のためにいろいろ貢献したので、数多くの荣誉称号を授与された。死後一年目の命日に当時の毛沢東主席が「雷鋒に学ぶ」と全国民に呼びかけた。

参考文献

【日本語文献】

- 井上徹 (2003) 「中国近世譜と宗族の実像」『東洋学報』85 東洋文庫
 王泉根 (1988) 『中国姓氏考』(林雅子訳) 第一書房(1995)
 倉橋圭子 (2004) 「中国族譜にみる文化資本の継承 — 科学継承の視点から」
 『東アジア家系記録(宗譜、族譜、家譜)の総合的比較研究』立教大学
 小熊誠 (2004) 「沖縄の家譜」『アジア遊学』67 勉誠出版
 真田信治編 (1987) 『命名の諸相 — 社会命名論データ集(I) —』大阪大
 学文学部社会言語学講座 真田研究室
 島村修治 (1977) 『世界の姓名』講談社
 瀬川昌久 (1996) 「中国人の族譜と歴史意識」『東洋文化』76 東京大学東洋
 文化研究所
 張洪澍 (2006) 『社会命名論としての族譜の研究 — 「東原彭氏族譜」を対象
 に —』大阪大学大学院文学研究科提出修士論文(未刊)
 中生勝美 (1999) 「中国の命名法と輩行制」上野和男・森謙二編
 『名前と社会』早稲田大学出版部
 丹羽基二 (2003) 「人名と漢字」『朝倉漢字講座③現代の漢字』朝倉書店
 八巻佳子 (1994) 「中国 — 漢民族の姓名」松本脩作・大岩川敏編『第三世
 界の姓名』明治書店

【中国語文献】

- 何晓明 (2001) 『姓名与中国文化』, 人民出版社
 李卓 (2004) 『中日家族制度比較研究』, 人民出版社
 劉宗迪 (2000) 『姓氏名号面面觀』, 馴魯書社
 納日碧力戈 (1997) 『姓名論』, 社会科学文献出版社
 蕭遙天 (1987) 『中國人名の研究』, 國際文化出版公司
 張聯芳主編 (1988) 『中國人的姓名』, 中國社會科學出版社
 張書岩 (2004) 『姓名・漢字・規範』, 北京廣播學院出版社

(大学院博士前期課程修了)

摘要

从社会命名论的视点看族谱之命名
——以《东原彭氏族谱》为资料——

张 洪澍

族谱是记载宗族历史的文献，其重要的史料价值已得到各界学者的首肯。本文从社会语言学的视点出发，以《东原彭氏族谱》为资料，将其上面所记载的东原彭氏一族各个世代的全部男性名字中的辈行字和辈行字以外的名字进行分类研究，目的是要明确族谱中所占比重最大的各个世代的宗族成员的命名特征。具体对族谱中辈行字命名法的特征，作为辈行字被使用的文字的特征，辈行字以外的另一文字的特征进行了验证分析。

分析的结果可以指出作为辈行字被选定的文字除了一个独立的汉字以外，也有一部分是汉字的部首。其中大部分辈行字是祈祷宗族的繁荣发展或表现儒教所宣传的美德的文字，而且从中看不出时代的变化。与之相反，从用于辈行字以外的文字中却可以感受到其受社会形势的影响而在不断变化的特征等等。

キーワード：族譜、輩行字、輩行字命名法